



前号に続き参考となるデータを掲載する。

外出手段アンケート報告②



堀込1の皆さん

10ページにまとめた報告内容は現在地区社協、自治会長、民協等に配布してデータ共有し、地区として何ができるのか検討していく準備に入っている。
(報告書を読みたい方は公民館窓口へご連絡下さい。)



アシコタウン内を散策

11月10日、11時と12時の2回に分けてアシコタウンへのツアーを実施、天候にも恵まれ暖かい一日でした。お世話役含め24名の参加、皆さん大変喜ばれ、カインズで花を買ったりヨークで買物したりミスタードーナツに行ったりと、それぞれの思い



堀込2の皆さん

で楽しまれ、毎月でも行きたいと言われる方もいました。午後の便はお昼時だったためカインズのフードコートで食事として、もっと時間が欲しいの声も出ました。帰りのバスも和気あいあい、楽しい一日でした。(堀一宮沢)



カインズフードコートで休憩中。

気味皆さん余裕を持った行動がとれて、無事行って来れました。目的のお店を決めて来られた方も何人かおられたが、多くはカインズとヨークの日用品、食品の買物が主体でした。フードコートでの食事を楽しまれた方も、それぞれおしゃべり交流と満足のいく半日を過ごされたようです。



大正琴の演奏もあって和やかな西新井町の敬老会。

今年の敬老の日は9月16日。前後して各所で恒例の敬老会が開かれた。対象を75才から80才以上にするために同一年代のみで5年間実施、本年漸く新年代が加わったの初回、市内全体で253か所、17,525名以上の開催。
市統計でみると高齢者の凡そ80才になられた方が1,691名おられるのに全体では226名の増、ということは前年の名簿から1,435名抜けていること。(多死時代と揶揄されている。)

敬老会

会食会含め多様な開催方法で

市の祝い金制度も変わり各町の実施形態も変化、顔を合わせた敬老会食会は地区内6町で、他は記念品配布であった。

多方面から参集、意見交換

高齢者の比率が増大するにつれて、その実態も多様化している。嘗て高度成長を成し遂げて来た世代は今や3割を超える高齢者となり、国の老齢施策、福祉施策が十分だとは言えない時代といえる。ましてや社会システムが自分達の生きて来たアナログ世界からデジタル、IT、SNS社会に進化して複雑・細分化されており、総体的な生き辛さや阻害感を感じ、苦しむ人が結構いるようです。独居、認知症、貧困、資産管理、外出手段、諸相談事、等日常生活上の悩み事はつきません。これらを自助と公助で解決しようとしても中々核心に届きません。ここに地域の共助力が加わりと世界は大きく変わります。皆さんも身近な知人等と交流



準備した机が一杯になった。



この共助力を連携・協働させたらその効力は倍加されていくのではないのでしょうか。それを目的に、タテワリの組織間に横ぐしを刺して、横断的に包括的により大きな括りで関係者が集まって、地区の課題・お困り事を多方面から話し合っ



意見を貼って、グループ発表へ。

ていこう、というのが、「地区支え合い協議会」です。山辺地区では平成30年から元気高齢課と地区社協が中心となつて活動が始まり、紆余曲折、コロナ禍での中断を経て、今年1月再開、少しずつ活動が定着しつつあります。各分野からの代表者が集まったの推進会議を月1回、広く地区内に呼びかけ多数でのプレインストーミング(BS)を年1~2回、を目標にしています。7/18に「見守り」についてのBS会実施。10分野から76名の参加で活発に意見が出されました。それぞれの組織分野で生かせるものを取り込んでいく段階です。